

## 有限会社アンプクとの じゅうろくポジティブインパクトファイナンス契約の締結について

2026年6月30日

株式会社 十六銀行

株式会社 十六総合研究所

十六フィナンシャルグループの株式会社十六銀行（頭取 種村 京平、以下「当行」といいます。）および株式会社十六総合研究所（代表取締役社長 澤田 大輔、以下「当社」といいます。）は、有限会社アンプク（取締役 安福 裕哉）とじゅうろくポジティブインパクトファイナンス（以下「PIF」といいます。）契約を締結いたしましたので、下記のとおりお知らせします。

PIFは、当行および当社にて、事業者さまの活動が外部（環境・社会・経済）に与えるインパクト（影響）を評価（特定・分析）し、ポジティブなインパクトの創出とネガティブなインパクトの低減に資するKPIを設定のうえ、定期的なモニタリングを通じてその達成に向けた取組みを支援していくことを目的とする資金調達手段です。

当行および当社は、PIFを通じて事業者さまと共通価値の創造をはかり、ともに持続的な成長を目指してまいります。

### 記




#### 1. PIF契約概要

コース	ローンコース
資金使途	運転・設備資金

#### 2. 企業概要

所在地	愛知県一宮市馬見塚字長畑23番地1
事業内容	自動車に搭載されるゴムホースの加工・組付・検査、 その他のゴム機能部品の加工・検査
設立	2002年5月
資本金	3百万円

**3. インパクト評価（要旨） ※ 詳細は後掲の「評価書」をご参照ください。**

特定インパクト	K P I	関連SDG s
次世代モビリティの普及	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2031年4月期における売上高を300百万円とする。 (2025年4月期実績：230百万円) ※以降は改めて目標を設定する。</li> </ul>	
温室効果ガスの排出抑制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2029年4月期に自家発電量を44,000kwhにする。 (2026年4月期実績：0kwh) ※以降は改めて目標を設定する。</li> </ul>	 
多様な人材の雇用創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2031年4月期の総従業員数を130名以上にする。 (2026年4月時点：94名)</li> <li>・ 2031年4月期の障害者雇用を16名以上にする。 (2026年4月時点：3名)</li> <li>・ 2031年4月期までに就労支援B型事業所の人員を3名受け入れる。 (2026年4月時点0名) ※いずれも、以降は改めて目標を設定する。</li> </ul>	

以 上

【ご照会先：十六フィナンシャルグループ（広報） TEL 058-266-2511】

有限会社アンプク  
ポジティブインパクトファイナンス評価書

2026年6月30日

十六総合研究所は、十六銀行が有限会社アンプク（以下、「アンプク」）に対してポジティブインパクトファイナンス（以下、「PIF」）を実施するにあたって、同社の事業活動が環境・社会・経済に及ぼすインパクト（ポジティブインパクトおよびネガティブインパクト）を分析・評価した。この分析・評価は、国連環境計画金融イニシアティブ（UNEP FI）が提唱した PIF 原則および PIF 実施ガイド（モデル・フレームワーク）、ESG 金融ハイレベル・パネルにおいてポジティブインパクトファイナンスタスクフォースがまとめた「インパクトファイナンスの基本的考え方」に則ったうえで、十六総合研究所が十六銀行と共同で開発した評価体系に基づいている。

# 目次

<b>1. 企業概要と理念、サステナビリティ</b> .....	- 3 -
(1)アンプクの概要ならびに理念 .....	- 3 -
(2)アンプクのサステナビリティ .....	- 4 -
<b>2. インパクトの特定</b> .....	- 4 -
(1)事業性評価 .....	- 4 -
(2)バリューチェーン分析 .....	- 5 -
(3)インパクトレーダーによるマッピング .....	- 6 -
(4)特定したインパクト .....	- 9 -
(5)インパクトニーズの確認 .....	- 11 -
(6)ポジティブインパクトに対する追加性、十六銀行との方向性の確認 .....	- 14 -
<b>3. インパクトの評価</b> .....	- 15 -
<b>4. モニタリング</b> .....	- 18 -
(1)アンプクにおけるインパクトの管理体制 .....	- 18 -
(2)当社によるモニタリング .....	- 18 -

## 1. 企業概要と理念、サステナビリティ

(1)アンプクの概要ならびに理念

### 【企業概要】

社名	有限会社アンプク
代表者	取締役 安福 裕哉
本社所在地	愛知県一宮市馬見塚字長畑 2 3 番地 1
拠点	部品加工事業部一宮南営業所 1 棟：愛知県一宮市猿海道 1 丁目 5 番 17 一宮南営業所 2 棟：愛知県一宮市猿海道 1 丁目 6 番 27 部品加工事業部一宮営業所：愛知県一宮市大和町馬引字郷戌亥 2224 番 部品加工事業部春日営業所：愛知県清須市春日落合 2 2 5 番
事業内容	自動車に搭載されるゴムホースの加工・組付・検査、その他のゴム機能部品の加工・検査
設立	2002 年 5 月
資本金	3 百万円
従業員数	94 名 (2026 年 4 月時点)
売上高	230 百万円 (2025 年 4 月期)

有限会社アンプクは、愛知県一宮市を拠点に、自動車の安全性と快適性を支えるゴムホースの加工・組付・検査を主軸とする事業者である。

同社が手掛ける「自動車用ゴムホース」は、主にエンジンやバッテリーに配管される。エンジンにおいては「過熱による焼き付きを防ぐための冷却水の循環や燃料の輸送」を、バッテリーにおいては「リチウムイオン電池の性能を最大限に引き出し、発火等の事故を防ぐための精密な温度管理（サーマルマネジメント）」の役割を担っている。これらの過酷な温度変化や振動に耐える耐久性と、液体や気体を漏らさず循環させる高い密閉性を備えることで、自動車のエンジンやバッテリーのパフォーマンスの維持に不可欠な部品となっている。

経営においては、社は「愚直に・地道に・徹底的に」を精神的支柱に据えている。一つひとつの工程において一切の妥協を許さず、細部にまで血の通ったモノづくりを実践することで、顧客が満足を得られる高品質な製品を安定して提供している。

また、現状に甘んじることなく、変化する市場環境のなかで顧客の期待を超えるべく日々カイゼンを積み重ね、品質・コスト・納期のすべてにおいてさらなる付加価値を追求し続けている。

地域に根差し、高度な組付け技術を通じて、モビリティ社会の進化と安心を足元から支えることが同社の使命である。

同社が組付したゴムホース



## (2)アンプクのスステナビリティ

同社は、自動車用ゴムホースの組付けという専門工程において、資源の効率化と品質の追求を両立することで、持続可能な社会の実現に寄与している。取引先との間の部品輸送では、梱包材の完全リターナブル化（通い箱の運用）を既に達成している。加えて、点在している加工拠点を集約することで、効率的な生産活動を推進していく計画が進行中である。

現場では徹底した品質管理により不良品を排除し、再送や再加工に伴う無駄を未然に防いでいる。この愚直なまでの品質管理こそが、製品の長寿命化を支え、ひいては自動車産業全体の資源保護に繋がっている。

また、一宮市という地域に根差し、安定した雇用と高度な技能を継承することで地域社会の活性化に貢献している。

今後も、顧客の期待を超える努力を継続し、環境・社会・経済が調和したモノづくりを追求していく。

## 2. インパクトの特定

### (1)事業性評価

同社は、自動車産業が集積する愛知を中心とした中京圏において、ゴムホース部品の加工・組付・検査を担うサプライチェーン上の重要な存在である。同社が取り扱う製品の多くは、カーボンニュートラル実現の鍵となるハイブリッド車（HV）や電気自動車（EV）の熱管理システムに組み込まれるものであり、その市場ニーズは極めて高い。

同社の強みは、カイゼンを重ね蓄積した、機械では代替困難な繊細な組付け手作業の標準化や高度な視認能力を要する外観検査にある。これら「人の手」による品質担保が、自動車の安全性と性能を最終的に決定づけている。

大手サプライヤーとの長年の取引実績は、同社の技術力と納期管理能力の高さを示しており、次世代モビリティ社会の進展に伴い、その存在感は今後さらに高まるものと評価される。

## (2)バリューチェーン分析

同社の事業は、自動車産業のサプライチェーンにおいて、車両の機能維持と安全性・快適性を担保する極めて重要な工程に位置しており、川上（仕入先）、同社、川下（顧客）の各フェーズを通じて、社会に対して多大なインパクトを発現させている。

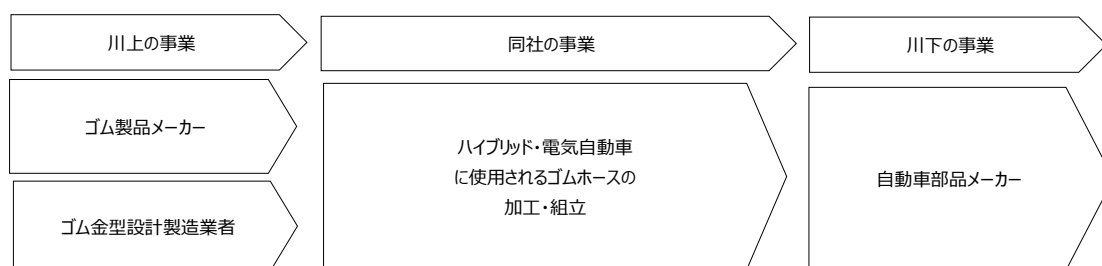
同社のバリューチェーンは、自動車産業が集積する当地域の物流ネットワークによって支えられており、同社の事業活動を通じて精密に組み付けられた製品は、川下のティア 1 メーカー、さらにはその先の自動車メーカーへと納入され、車両の一部として世界中へ送り出される。

同社が加工・組付を手掛けるゴムホースは、動力の要となるエンジンやモーターなどを支える重要な部品である。これらの部品は、過酷な温度変化や振動に絶えず晒される過酷な環境下で、液体や気体を漏らさず循環させ続ける役割を担っている。もし組付工程で微細なミスがあれば、液体や気体の漏洩や圧損による機能不全を引き起こし、車両の故障や人命に関わる重大事故を招きかねない。

このため、組付けの精度は車両の安全性と信頼性を左右する決定的な要素となる。顧客である大手サプライヤーは、この極めて重要な工程を任せるパートナーに対し、一切の妥協を許さない「不良品ゼロ」の継続を要求する。

同社は、社是である「愚直に・地道に・徹底的に」という精神のもと、材料受入時から最終組付に至るまで、徹底した品質管理と高い技術力による加工で信頼を積み重ねてきた。この揺るぎない実績こそが、顧客からサプライチェーンに不可欠なパートナーとして認められ、強固で長期的な信頼関係を築くための基盤となっている。

### ● 同社のバリューチェーン図



(3)インパクトレーダーによるマッピング

●インパクトマッピング（「インパクトレーダー」改訂版（2022年）および UNEP FI「SECTORS MAPPING」（2024年12月改訂版）に基づき十六総研作成）

バリューチェーン			川上の事業				同社の事業		川下の事業	
国際標準産業分類			2219		2593		2219		2930	
			その他のゴム製品製造業		刃物、手道具及び一般金物類製造業		その他のゴム製品製造業		自動車部品及び付属品製造業	
大分類	インパクトエリア	インパクトトピック	PI	NI	PI	NI	PI	NI	PI	NI
社会	人格と人の安全保障	紛争								
		現代奴隷								
		児童労働								
		データプライバシー								
	健康と安全性	自然災害								
		-		●		●		●		●
	資源とサービスの入手可能性、アクセス可能性、手ごろさ、品質	水								
		食糧								
		エネルギー								
		住居				●				
		健康と衛生								
		教育								
		移動手段								●
		情報								
		コネクティビリティ								
		文化と伝統								
	ファイナンス									
	生計	雇用		●		●		●		●
		賃金		●	●●	●	●●	●	●●	●●
		社会的保護			●		●		●	●
平等と正義	ジェンダー平等									
	民族・人権平等									
	年齢差別									
	その他の社会的弱者									
社会経済	強固な制度・平和・安定	市民的自由								
		法の支配								
	健全な経済	セクターの多様性								
		零細・中小企業の繁栄				●			●	
	インフラ	-								
	経済収束	-								
環境	気候の安定性	-		●		●		●		●●
	生物多様性と生態系	水域		●●		●		●●		●
		大気		●		●		●		●
		土壌		●				●		
		生物種		●				●		
		生息地		●				●		
	サーキュラリティ	自然強度		●●		●●		●●		●●
		廃棄物		●●		●		●●		●

※マッピング中の「●●」は重要な影響があるトピック、「●」は影響があるトピックを示している。

先述のバリューチェーン分析の結果をもとに、インパクトマッピングを実施した。

同社ならびに同社の川上・川下の事業を国際標準産業分類（ISIC）上の業種カテゴリに適用させた上、UNEP FI が提供するインパクトレーダーを用いて「ポジティブインパクト」（以下 PI）と「ネガティブインパクト」（以下 NI）を想定する。

同社の事業については「その他のゴム製品製造業（ISIC 2219）」を、川上の事業については「その

他のゴム製品製造業（同 2219）」および「その他の金属製品製造業（同 2593）」、川下の事業については「自動車部品及び付属品製造業（同 2930）」をそれぞれ適用し、発生するインパクトの検証を行った。

#### 【川上の事業】

川上の事業においては、同社が与える影響が希薄であると判断し検証を省略した。

#### 【同社の事業】

同社の事業においてはインパクトマッピング上で発現が指摘されるインパクトエリアを網羅的に検証する。

「健康および安全性」のエリアにおいては、労働災害発生リスクが NI として指摘される。

同社は、社内における安全衛生管理を徹底し、この NI の緩和に努めている。

SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。

- ・「8.8:労働者の権利を保護し、安全・安心に働けるようにする」

「生計（雇用、賃金）」のエリアにおいては、従業員の雇用・賃金の創出が PI として指摘される。

同社は、地元の人材を積極的に雇用し、地域住民の就労、生計の維持に貢献し、この PI の拡大に貢献している。

SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。

- ・「8.5:雇用と働きがいのある仕事、同一労働同一賃金を達成する」
- ・「8.8:労働者の権利を保護し、安全・安心に働けるようにする」

「気候の安定性」のエリアにおいては、温室効果ガスの排出が NI として指摘される。

同社は、空調やフォークリフト等の設備を省エネに配慮したものにに入れ替え、使用電力量を減らすことで間接的に温室効果ガス排出量を削減し、この NI の緩和に努めている。

SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。

- ・「7.3:エネルギー効率の改善率を増やす」
- ・「13.3:気候変動の緩和、適応、影響軽減及び早期警戒に関する教育、啓発、人的能力及び制度機能を改善する」

「サーキュラリティ（廃棄物）」のエリアにおいては、加工・組付時および輸送時における産業廃棄物の発生が NI として指摘される。

同社は、加工・組付の工程において徹底した品質管理と高い技術力で不良品の発生を極限まで抑

えている。また川上の事業者からの組付け前の部品輸送、川下の事業者への納入品の輸送において、各企業と連携し梱包材の完全リターナブル化を推進し廃棄物を発生させない体制を構築することで、このNIの緩和に努めている。

SDGsでは、以下のターゲットに該当すると考えられる。

- ・「12.5:廃棄物の発生を減らす」

なお、「生計（社会的保護）」「生物多様性と生態系（水域、大気、土壌、生物種、生息地）」「サーキュラリティ（自然強度）」のエリアにおけるNIについては、同社事業との関連性が希薄であると判断し、検証を省略した。

#### 【川下の事業】

「資源とサービスの入手可能性、アクセス可能性、手ごろさ、品質（移動手段）」のエリアにおいては、同社がゴムホースを提供することで、移動手段としての自動車がより身近なものになることがPIとして指摘される。

ゴムホースは自動車に欠かすことのできない部品であり、同社が高品質のゴムホースを自動車部品メーカーに提供し、最終的には自動車メーカーによって安全かつ高性能な自動車が生産されることでPIの拡大に貢献している。

SDGsでは、以下のターゲットに該当すると考えられる。

- ・「9.1：経済発展と福祉を支える持続可能で強靱なインフラを開発する」

#### (4)特定したインパクト

下図は「バリューチェーン分析」「インパクトマッピング」の結果を踏まえて、同会のバリューチェーンが与えるインパクトを可視化したものである。



以上を踏まえて同社のインパクトを下記のように特定した。

- 次世代モビリティの普及
- 温室効果ガスの排出抑制
- 多様な人材の雇用創出

#### ■ 次世代モビリティの普及

同社が加工・組付・検査を行うゴムホースの多くは、ハイブリッド車（HEV）や電気自動車（EV）の熱管理システムにおいて不可欠な構成部品である。電動車は従来のガソリン車と比較して、バッテリーやモーター、インバーターなどの温度管理が走行性能や安全性に直結するため、部品には極めて高い気密性と精度が要求される。

同社は長年培った技術により、これら重要保安部品の微細な不良を見逃さない厳格な検査体制を構築している。この体制により供給される高品質な部品は、車両の信頼性を底上げし、消費者が安心して次世代自動車を選択できる環境を技術的側面から支えるものである。

基幹産業である自動車産業の構造転換を支える同社の事業は、持続可能なモビリティ社会の実現に向けた大きなインパクトを生み出している。

このインパクトは、UNEP FI のインパクトレーダーでは「資源とサービスの入手可能性、アクセス可能性、手ごろさ、品質（移動手段）」のエリアに該当し社会的側面の PI を拡大すると考えられる。

SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。

・「9.1:経済発展と福祉を支える、質の高い、信頼でき、持続可能かつ強靱なインフラを整備する」

#### ■ 温室効果ガスの排出抑制

温室効果ガスの排出抑制は、車両の走行時だけでなく、製造から廃棄に至るライフサイクル全体で捉える必要がある。

同社は、手作業による加工・組付において、原材料の歩留まり向上と廃棄物削減を徹底しており、限られた資源を無駄なく製品化する高度な技能を有している。また、厳格な品質検査によって「不良品を後工程に流さない」体制を敷くことは、自社内での仕損じによるエネルギーの無駄を排除するだけでなく、完成車となった後の予期せぬ故障やリコールに伴う部品交換・再製造といった、サプライチェーン全体における膨大な環境負荷を未然に防ぐことに直結している。

このように、一つひとつの部品に対して徹底した品質保証を行うことは、車両自体の長寿命化を支える基盤となり、結果として資源の有効活用を通じたバリューチェーン全体での温室効果ガスの排出抑制に大きく寄与している。

また、今後は太陽光発電設備導入による電力の自家消費も計画しており、再生可能エネルギーの使用により、温室効果ガス排出量をより一層削減するように努める方針である。

このインパクトは、UNEP FI のインパクトレーダーでは「気候の安定性」のエリアに該当し環境的側面の NI を緩和すると考えられる。

SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。

・「7.3：世界全体でのエネルギー効率の改善率を倍増させる」

・「13.3：気候変動の緩和、適応、影響軽減及び早期警戒に関する教育、啓発、人的能力及び制度気候を改善する」

#### ■ 多様な人材の雇用創出

同社は地域社会に根ざし、住民に対し長年にわたり安定した就業機会を提供し続けている。

同社の事業は、機械による一律的な自動化が困難な領域を含んでおり、熟練した従業員の「目」と「手」による丁寧な仕事ぶりが付加価値の源泉となっている。同社は、経験豊富なベテランから若手、障害者雇用にも積極的に取り組んでいる。個々の特性や能力に応じた適切な工程配置と、実務を通じた丁寧な技術指導を行うことで、誰もが戦力として活躍できる職場環境を整備している。

このように、ハンディキャップの有無に関わらず、製造業の基盤を支える技能継承の一役を担うことで、

個々の能力を最大限に引き出すとともに、地域経済の活性化と住民の生活安定に大きく寄与するものである。

このインパクトは、UNEP FI のインパクトレーダーでは「生計（雇用）」のエリアに該当し社会的側面のPIを拡大すると考えられる。

SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。

- ・「8.5：雇用と働きがいのある仕事、同一労働同一賃金を達成する」

#### (5)インパクトニーズの確認

##### ①日本におけるインパクトニーズ

同社の売上は日本国内におけるものである。国内における SDGs インデックス&ダッシュボードを参照し、そのインパクトニーズと同社のインパクトとの関係性を確認した。

本 PIF において特定したインパクトに対応する SDGs ゴールは、以下の 3 点である。

- ・「8：包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する」
- ・「9：強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る」
- ・「13：気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる」

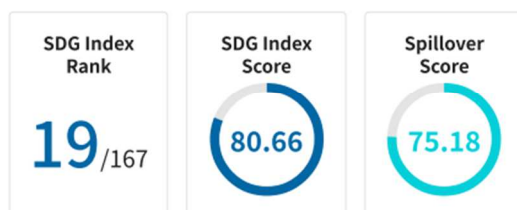
国内における SDGs ダッシュボード上では、「13」については大きな課題が残っている、「9」については重要な課題が残っている、「8」については「課題が残っている」とされており「次世代モビリティの普及」「温室効果ガスの排出抑制」「多様な人材に向けた雇用機会の創出」といった取り組みが、国内におけるインパクトニーズと一定の関係性を有することを確認した。

# Japan

OECD member



BACK OVERVIEW INDICATORS FACT SHEET POLICY EFFORTS



## SDG Dashboards and Trends

Click on a goal to view more information.



Dashboards: ● SDG achieved ● Challenges remain ● Significant challenges remain ● Major challenges remain ● Information unavailable

Trends: ↑ On track or maintaining SDG achievement ↗ Moderately improving → Stagnating ↓ Decreasing

\*\* Trend information unavailable

(出所：SDSN)

## ②愛知県におけるインパクトニーズ

また、同社が愛知県を中心に事業を展開していることから、「愛知県 SDGs 未来都市計画（第2期）」を参照し、愛知県内における SDGs 達成に向けての課題を確認した。下記のとおり、愛知県は「自動車産業を始めとしたあらゆる産業において、イノベーションを巻き起こす力強い産業づくりの推進が必要」「カーボンニュートラルの実現にも取り組んでいくことが重要」としており、同社が事業を通じて力強い自動車産業を推進すること、空調やクレーン車を省エネ設備に切り替えカーボンニュートラルに向けた活動を推進していくこと等の取組みが愛知県内におけるインパクトニーズと一定の関係性があることを確認した。

「愛知県 SDGs 未来都市計画（第 2 期）」より今後取り組む課題を抜粋

（経済面）

○ デジタル化の急速な進展に伴って、産業構造の大きな変化が見込まれる中、自動車産業を始め、あらゆる産業において、イノベーションを巻き起こす力強い産業づくりの推進が必要。

（社会面）

○ 今後、人口減少局面に転じるとともに、急速に高齢者が増加。すべての人が参画し、生涯にわたって活躍できる社会を築いていくことが課題。

○ 若年女性の東京圏への流出超過が拡大する中で、持続的な発展のためには、若年女性の流入・定着が重要で、企業等で女性が活躍できる環境をつくっていくことが課題。

（環境面）

○ 都市化や産業活動により失われた各地域の生態系を再生・回復、維持していくためには、多様な主体が連携して生態系を守っていくことが課題。また、我が国随一の産業県として、企業等と連携しながらカーボンニュートラルの実現にも取り組んでいくことが重要。

(6)ポジティブインパクトに対する追加性、十六銀行との方向性の確認

本 PIF で特定した PI は、「次世代モビリティの普及」「多様な人材の雇用創出」である。

「次世代モビリティの普及」では、愛知県を中心とした中京圏の主要産業である自動車産業の競争力維持と、それに伴う地域経済の持続的な発展を支えるものである。

同社が担うハイブリッド車（HV）や電気自動車（EV）向けの重要部品の提供は、自動車業界が「100年に一度」の変革期を迎えるなかで、地域サプライチェーンが次世代モビリティへと適応するために欠かせない役割である。高い気密性が求められるゴムホースの組付・検査において同社が品質を担保することで、次世代自動車の普及・信頼性向上が促進される。これは地元の主要産業である自動車関連企業の受注安定化や生産活動の活発化に直結し、地域全体の製造基盤を強化することに繋がる。

「多様な人材の雇用創出」では、単なる人員確保に留まらず、地域住民に対して年齢や経験を問わず幅広い活躍の場を提供し、個々の技能を活かせる環境を整備している。

同社の主軸である部品の加工・組付・検査業務は、機械による自動化が困難な繊細な手作業を必要とするため、従業員の習熟度と丁寧な仕事ぶりが付加価値の源泉となっている。同社では、未経験者や多様な働き方を希望する人材を積極的に受け入れ、実務を通じた丁寧な技能伝承を行うことで、地域における「働く場」を提供している。従業員一人ひとりが技術を磨き、重要な部品の品質を守るという誇りを持って働ける職場づくりは、地域の労働環境の質を向上させる。

十六フィナンシャルグループでは、「十六フィナンシャルグループ SDGs 宣言」の中で「地域経済の活性化」「地域社会の持続的発展」「多様な人材の活躍推進」「環境保全と気候変動対策」「ガバナンスの高度化」の5つをSDGs達成に向けた重点課題（マテリアリティ）としている。


「次世代モビリティの普及」は「地域経済の活性化」「地域社会の持続的発展」「環境保全と気候変動対策」と、「多様な人材に向けた雇用機会の創出」は「地域経済の活性化」「地域社会の持続的発展」「多様な人材の活躍推進」とそれぞれ方向性が一致する。

以上から、本 PIF の取組みは追加性のある PI 創出支援を行うものであり、その本源的目的との合致を確認したうえで SDGs 達成に向けた資金需要と資金供給とのギャップを埋めることを目指すものである。



### 3. インパクトの評価

ここでは、特定したインパクトの発現状況を今後も測定可能なものにするため、先に特定したインパクトに対し、それぞれに KPI を設定する。

#### ■ 次世代モビリティの普及

項目	内容
インパクトの種類	社会的側面においてポジティブインパクトを拡大
インパクトエリア・トピック	「資源とサービスの入手可能性、アクセス可能性、手ごろさ、品質（移動手段）」
関連する SDGs	
内容・対応方針	・点在している加工拠点を集約のうえ、敷地面積および設備を拡大する。また、それに伴い人員増強をはかり、高品質な部品供給を通じた次世代自動車の普及・信頼性向上に貢献する。
KPI	・2031 年 4 月期における売上高を 300 百万円とする。 (2025 年 4 月期実績：230 百万円) ※以降は改めて目標を設定する。

■ 温室効果ガスの排出抑制

項目	内容
インパクトの種類	環境的側面においてネガティブインパクトを緩和
インパクトエリア・トピック	「気候の安定性」
関連する SDGs	 
内容・対応方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2026 年度中に完成予定の新社屋の屋根に太陽光発電設備を設置し、そこで発電した電力を自家消費することで再生可能エネルギー比率を高め、温室効果ガスの排出を抑制する。</li> </ul>
KPI	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2029 年 4 月期に自家発電量を 44,000kwh にする。 (2026 年 4 月期実績 : 0kwh)</li> <li>※以降は改めて目標を設定する。</li> </ul>

■多様な人材の雇用創出

項目	内容
インパクトの種類	社会的側面においてポジティブインパクトを拡大
インパクトエリア・トピック	「生計（雇用）」
関連する SDGs	
内容・対応方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続的な採用活動で新たな従業員を入社させるとともに、従業員の定着に資するハラスメント防止の教育、従業員のワークライフバランスの尊重を徹底することで働きやすい職場環境を整備する。</li> <li>・障害を持つ従業員との密なコミュニケーションを通じ、潜在的な課題や不安を早期に把握・解消し、誰もが安心して働き続けられる心理的安全性の高い職場環境づくりを推進する。</li> <li>・就労支援 B 型事業所と連携し、同事業所で働く人材を同社で受け入れられる体制を構築する。</li> </ul>
KPI	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2031 年 4 月期の総従業員数を 130 名以上にする。 (2026 年 4 月時点：94 名)</li> <li>・2031 年 4 月期の障害者雇用を 16 名以上にする。 (2026 年 4 月時点：3 名)</li> <li>・2031 年 4 月期までに就労支援 B 型事業所の人員を 3 名受け入れる。(2026 年 4 月時点 0 名)</li> </ul> <p>※いずれも、以降は改めて目標を設定する。</p>

## 4. モニタリング

### (1) アンプクにおけるインパクトの管理体制

同社では、取締役の安福 裕哉 氏を中心に自社業務の棚卸を行い、本 PIF におけるインパクトの特定ならびに KPI の策定を行った。今後については、同氏を中心に SDGs の推進、ならびに本 PIF で策定した KPI の管理を行っていく方針である。

#### 【モニタリング体制】

統括責任者	取締役 安福 裕哉
-------	-----------

### (2) 当社によるモニタリング

本 PIF で設定した KPI および進捗状況については、同社と十六銀行、十六総合研究所の担当者が定期的な場を設けて情報共有する。少なくとも年に 1 回実施するほか、日々の情報交換や営業活動を通じて実施する。

#### 【留意事項】

1. 本評価書の内容は、十六総合研究所が現時点で入手可能な公開情報、アンプクから提供された情報や同社へのインタビューなどで収集した情報に基づいて、現時点での状況の評価したものであり、将来における実現可能性、ポジティブな成果等を保証するものではありません。
2. 十六総合研究所が本評価に際して用いた情報は、十六総合研究所がその裁量により信頼できると判断したものであるものの、これらの情報の正確性等について独自に検証しているわけではありません。十六総合研究所は、これらの情報の正確性、適時性、網羅性、完全性、および特定目的への適合性その他一切の事項について、明示・黙示を問わず、何ら表明または保証をするものではありません。
3. 本評価書に関する一切の権利は十六総合研究所に帰属します。評価書の全部または一部を自己使用の目的を超えての使用（複製、改変、送信、頒布、譲渡、貸与、翻訳及び翻案等を含みます）、または使用する目的で保管することは禁止されています。



十六総合研究所

16FG